

# 日本農業新聞

## 大阪でキャベツ食べ比べ

種苗会社や卸売会社でつくろる青果育種研究会は

10日、大阪市中央卸売市場東部市場で夏秋野菜の



品種見本市を開いた。

「大阪の食が求める野菜の価値とは？」をテーマに、各種苗会社一押し野菜が並んだ。加工キャベツの食べ比べコーナーでは、大阪を代表する、

品種、会社別キャベツを使ったお好み焼きを食べ比べる参加者(10日、大阪市東住吉区で)

庶民の味「お好み焼き」に使った時の食感に参加者の関心が集まっていた。

野菜の消費拡大を目指して開かれ、今回が139回目となる。生産者や流通、種苗関係者ら約100人が集まった。

お好みキャベツコーナーでは、5社の5品種を使ったお好み焼きが並んだ。オタフクソース担当者がキャベツだけを食材にして調理し、参加者が

試食した。その中で人気が高かったのはトキタ種苗の「彩藍」で、「しゃきとした歯応えがある」「風味もいい」と評価された。

渡辺採種場の「好菜筐」も、「食感が残るキャベツらしい味」と好評だった。

業務加工用キャベツとして、雪印種苗の「晴信」やタキイ種苗の「おきな」、カネコ種苗の「みくに」が並んだ。オタフクソース担当者は「甘味、苦味の少なさに加えて、食感がおいしさのポイントになりそう」と話していた。